名古屋市立大学
大学院医学研究科・医学部 広報誌

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT

2017.5. VOL.33

contents

極 研究&教育 Current topics in research and education
人 時の人 People in the news
技 最新医療の紹介 Latest developments on the medical front
和 お知らせ Information

医学研究科・医学部附属病院新体制スタート!

研究科長就任のご挨拶

研究科長　道川　誠

本年度より医学研究科長・医学部長を拝命いたしました道川誠（病態生化学分野）でございます。名古屋市立大学医学研究科の益々の発展のため、全力を尽くす所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

わが国ならびに取り巻く国際状況は、かつてない変化・激動の時代に突入しております。急速に進む少子高齢化、国境を越えた人の流動化、経済・知や情報・技術のグローバル化、一方で起こりつつある反グローバル化、AI、IoTの展開による生活の革命的な変化など、人類が経験したことのない未知の領域に直面する時代です。当然ながら大学もその存在意義と進むべき方向性を社会から問い返されており、求められる医学教育・研究・診療の内容も変化のスピードを増しています。医学研究科には、この刺激的で魅力ある時代をリードする気概が求められています。何を残し、何を大胆に変えるべきか。人類の知の探究、医学医療の進歩という普遍的な使命を基盤としつつ、固定観念を打破し時代を先取りする決断と実行が必要です。

当然ながら、こうした状況の変化は同時に大きなチャンスでもあります。この4月から、医学研究科におきましては、本学の持つ様々な優れた資源を最大限に生かしながら、直面する諸課題を乗り越え、勝ち越えていくべく、新たな布陣で前進を開始いたしました。教職員、学生・同窓生の皆様とともに、志も高く新たな挑戦をしてまいりたいと存じます。今後とも、なお一層の暖かなご支援とご協力をお願い申し上げます。

病院長就任のご挨拶

病院長　小椋　祐一郎

このたび、平成29年4月から病院長を拝命いたしました小椋祐一郎です。専門は眼科で、平成9年に医学部教授として着任して今年でちょうど20年になります。皆様のご協力のもと、病院の更なる発展、活性化に向けて一生懸命努力する所存ですので、よろしくお願いいたします。

今年度は4月から、増設された3つの手術室の稼働が始まりました。ハイブリッド手術や4K内視鏡手術などの高度先進医療が可能になります。また、臨床検査部の生理機能検査部門や内視鏡センターの拡張工事も今年度に始まります。人間文化研究科との協力による「医療心理センター」も4月から開設され、大学院教育、臨床心理士の養成が始まりました。芸術工学部との共同で設置している「医療デザイン研究センター」にも大学院分野が新設されました。東部・西部医療センターとの連携強化に向けた「高度医療教育研究センター」も4月から本格稼働し、本センター所属の教授（診療担当）、准教授などの教員の先生の東部・西部医療センターでの診療が始まりました。

以上のように新しい事業が目白押しですが、今後とも皆様のご支援を何とぞよろしくお願いいたします。

“瑞医の由来”

『瑞医（ずいい）』という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port（港・空港）」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

01 研究&教育
Current topics in research and education

連携病院

高度医療教育研究センターが開設されました

本年4月1日より名古屋市立大学病院に高度医療教育研究センターが開設され、3名の教授、2名の准教授に着任いただきました。また、7月には、講師1名の着任が予定されています。さらに、名古屋市立東部医療センター5名、西部医療センター7名の先生方に、本センターの教授を委嘱し、ご着任いただきました。各先生のプロフィールは、本誌にて紹介させていただいておりますので、ご覧下さい。

本センター開設の目的は、名古屋市立の2つの医療センターと名古屋市立大学病院が、これまで以上に緊密な協力関係を築くことにあり、すべてのセンター教員の先生方には、医療センターと大学病院の両方において、診療、研究、教育に当たっていただく予定です。

これにより、1、名古屋市を中心とした市民の皆さんに、高度でかつ安全な医療を提供する体制の充実、2、臨床研究における連携体制の構築、3、学部学生の臨床実習の充実、4、卒業後の初期研修、専門医研修における連携体制の構築など、総病床数1800床のスケールを活かした高いレベルの医療・研究・人材育成が実現できるものと思います。

末筆となりますが、高度医療教育研究センターの開設にあたり、ご理解を賜りました名古屋市病院局をはじめとする関係の皆様に心より御礼申し上げるとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。　（分子神経生物学　教授　浅井 清文）

高度医療教育研究センター新設のお礼

この度、高度医療教育研究センターを新設していただき、誠にありがとうございます。センター設立にご尽力を賜りました多くの皆様に、厚くお礼申し上げます。そして、その趣旨にご賛同いただき、この4月から教授、准教授または講師として名古屋市立東部または西部医療センターにご着任していただきました先生方に敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。また、現在名古屋市立病院で中心的役割を担っている院長、副院長、センター長を高度医療教育研究センターの教授に任命していただき、誠にありがとうございます。

名古屋市立病院がより高度の医療を提供し続けるためには、大学病院と一層強い連携を築き、一体となって常に進化していかなければならないと考えています。今から10年、20年後に、今回の高度医療教育研究センターを設立してよかったとご評価いただけるよう努力してまいります。皆様、今後も温かいご支援・ご指導をお願い申し上げます。

名古屋市病院局長　大原 弘隆

教　育

高度医療教育研究センター 新任教員紹介

東部医療センター病院長・高度医療教育研究センター教授（外科）　田中　宏紀

このたび、高度教育研究センターの教授を拝命いたしました。私は、長く現東部医療センターに勤務し、色々な意味での大学との一層の交流の必要性を感じております。学生さんの講義などは、長くしておりませんが、少しでも市民病院での現場の医療を伝えて、市大と市民病院の交流、発展に寄与したいと存じます。

東部医療センター副院長・高度医療教育研究センター教授（循環器内科）　村上　善正

この度、高度教育研究センター教授（循環器診療担当）を拝命いたしましたので、謹んでご挨拶申し上げます。頻脈性不整脈のカテーテル治療を専門とし、大学のこの治療立ち上げにも携わってきました。大学、東部、西部が三位一体となった連携強化に向けて甚だ微力でありますが邁進していく所存です。宜しくお願い申し上げます。

●就寝前にストレッチを始めました。辛い前屈も日を追うごとに快感に?マゾ的な自分を再発見!（事務職員　男性）

高度医療教育研究センター 新任教員紹介

東部医療センター副院長・高度医療教育研究センター教授（消化器内科）　川合　孝

平成29年4月1日付で、このたび新設された高度医療教育研究センター教授を拝命いたしました。平成30年度から導入予定の新専門医制度は研修医の病院選択の動向に大きな影響を及ぼすことが予測されます。研修医の皆さんに満足してもらえる教育・指導体制を研究して、研修医のみならず指導医の確保にも努めて参りたいと思っております。

東部医療センター副院長・高度医療教育研究センター教授（整形外科）　吉田　行雄

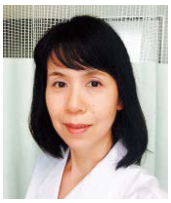
東部医療センターでは、整形外科に所属しています。東部では、数年前から外科系二次救急を積極的に進めてきました結果、平成28年度の整形外科手術件数は約1100件に及び、そのうち約7割が外傷です。大学の整形外科臨床実習では経験することが少ない骨折など外傷の対処法の実際について学生実習を行いたいと考えています。

東部医療センター第一泌尿器科部長・高度医療教育研究センター教授（泌尿器科）　丸山　哲史

このたび高度医療教育研究センター教授を拝命致しました。謹んでご挨拶申し上げます。東部医療センター泌尿器科部長としての業務に加え、腎・泌尿器科学講座および小児泌尿器科学講座と連携し、特に小児排尿障害、膀胱尿管逆流をテーマにした臨床研究に全力で取り組む所存です。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

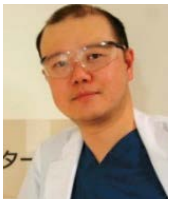
東部医療センター特別診療科部長・高度医療教育研究センター教授（耳鼻咽喉科）　鈴木　元彦

この度、名古屋市立大学大学院高度医療教育研究センター教授（診療担当）職を拝命した鈴木元彦と申します。私のような若輩ものがこのような大役を仰せつかりまして、身の引き締まる思いです。高度医療教育研究センターの主な目的は大学と市民病院の連携を緊密なものとし、一体となって高度医療・研究を推進するとともに優れた医師の育成を図ることですが、これらの目的を達成するために精進していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。



東部医療センター特別診療科部長・高度医療教育研究センター准教授（循環器内科）　山下　純世

この度、高度医療教育研究センター教員として名古屋市立東部医療センター勤務を拝命しました。生活習慣病に対する包括的サポートシステムの構築を目指し、病診連携や多職種連携をより深める一方、高血圧・循環器病予防療養指導士など人材育成にも尽力したいと考えております。ご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



東部医療センター特別診療科部長・高度医療教育研究センター講師（神経内科・救急科）　三浦　敏靖　（7月着任予定）

神経内科医として臨床経験を積ましていただき、名市大病院では主に救急科に所属し、その経験を活かすべく日々救急患者さんと向き合わせてもらっていました。脳卒中や内科救急といったシミュレーション教育にも力を入れています。

今までの経験を活かして、医療教育、神経内科医療、救急医療、災害医療など大学と東部医療センターの懸け橋になれればと思います。

西部医療センター長・高度医療教育研究センター教授（小児科）　鈴木　悟

この度「高度医療教育研究センター教授」を拝命した西部医療センター鈴木です。

当院は「女性と子どもにやさしい病院」「がん医療を支える病院」の理念の元、この5月で7年目に入りました。500床+東海三県下唯一の名古屋陽子線治療センターを擁する急性期型総合病院として、臨床面だけでなく、教育や研究の面からも名市大をバックアップしていきたいと考えています。

西部医療センター病院長・高度医療教育研究センター教授（消化器外科）　桒原　義之

平成29年4月1日付で、名古屋市立大学　高度医療教育研究センターの教授に就任させていただきました。名古屋市立西部医療センターを基盤として、高度医療の推進、専門医の育成、研修医や学生の指導とともに、名古屋市立大学とより密接な関係を築けるように尽力してまいります。何卒よろしくお願いいたします。

01 研究&教育
Current topics in research and education

教　育

高度医療教育研究センター 新任教員紹介

西部医療センター副院長・高度医療教育研究センター教授（消化器内科）　妹尾　恭司

私は、昭和60年に本学を卒業後旧第一内科に入局し、現消化器・代謝内科学教室に所属して消化器を専門に従事して参りました。6年前の西部医療センター開院時から関わらせていただき、今回の人事交流による市立大学と市立病院との医療・教育・研究の連携強化に貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

西部医療センター副院長・高度医療教育研究センター教授（整形外科）　稲田　充

この度、高度医療教育研究センターの整形外科・診療担当教授に就任いたしました。平成6年本校を卒業し複数の関連病院で研修後、現在、名古屋市立西部医療センター・脊椎センターで、脊椎手術を低侵襲化する術式の研究と実践を行っております。今後は高度な診療を推進するとともに大学との臨床面と研究面での密な連携と、学生の教育に貢献できれば幸いと考えています。

西部医療センター副院長・高度医療教育研究センター教授（小児科）　村松　幹司

高度医療教育研究センター教授を拝命致しました。謹んでご挨拶申し上げます。

大学での臨床・教育は大学院を修了して以来で、懐かしい顔ぶれもあり楽しく感じております。専門とする小児科・新生児学では、新任の岩田先生と共に、いかに楽しくNICUで学んでもらうかを試行錯誤中です。皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

西部医療センター放射線診療センター長・高度医療教育研究センター教授（放射線科）　原　眞咲

20年勤務した大学から移動し丸4年が経過しました。若い先生を随時迎え、診断9名、治療3名、陽子線5名計17名の体制となりました。高水準の迅速、正確、丁寧なサービスに加え、次世代の育成をも目指したため非常に忙しい毎日です。今後は、西部・東部・大学が融合した魅力ある病院群の創設に微力を尽くす所存です。金曜にM5BSLおよび若い先生方の読影指導を担当いたします。よろしくお願いいたします。

西部医療センター特別診療科部長・高度医療教育研究センター教授（産科婦人科）　尾崎　康彦

西部・東部・大学病院をひとつのトライアングルとして、トップクラスの医療・医育機関にすることを目指します。学びはプロフェッショナリズムを自覚させキャリアアップのモチベーションを継続させます。“臨床・研究・教育”のエフォートを適時適所に調整しながら、3病院のネットワークを構築し拡充したいと考えています。

西部医療センター特別診療科部長・高度医療教育研究センター教授（泌尿器科）　梅本　幸裕

このたび高度医療教育研究センター（西部医療センター泌尿器科担当）教授を拝命した梅本幸裕と申します。

大学では主に男性不妊症に関する基礎および臨床研究を行うかたわら、8年間医局長を担当しておりました。このため泌尿器科教室と関連病院とのパイプ役もしておりました。今回西部医療センターの診療部長を兼任するということで、大学との連携した医療を目指していく所存であります。若輩者でありますので、みなさまのご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

西部医療センター特別診療科部長・高度医療教育研究センター准教授（呼吸器内科）　高桑　修

このたび高度医療教育研究センター准教授を拝命致しました高桑　修と申します。人事交流として週4日は西部医療センター呼吸器内科で、1日は大学病院で勤務しています。両施設に所属する利点を研究面で生かすとともに、名市大の学生や若手医師にとって西部医療センターがより身近で更に魅力的な存在となるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

02 時の人 People in the news

新任教授のご紹介

消化器外科学分野― 瀧口 修司 教授

瀧口 修司 教授

はじめまして、この度2017年4月1日より名古屋市立大学 外科学講座 消化器外科分野教授に着任いたしました瀧口修司でございます。名古屋市立大学の一員として働かせていただけることを大変光栄に存じております。

私は、大阪で生まれ育ち、大阪大学医学部に入学後、平成3年卒業いたしました。同附属病院、関連病院で初期研修を行いました。1997年大阪大学内視鏡外科学講座の助手となり、2002年消化器外科（病態制御外科）所属、2013年同講師、2015年同准教授を経て現職となっております。

消化器外科を中心に上部消化管、特に胃癌、食道癌の手術を手がけてまいりました。卒後間もなく内視鏡手術に興味を持ち、大腸癌含め様々な疾患の内視鏡手術を数多く手がけてまいりましたので、今回は、消化器外科分野全体をまとめさせていただく大役をいただきました。今後は、これまでの経験を活かし、安全かつ安心できる手術を提供しつつ、後進の指導を充実させ、皆様に信頼される外科医を一人でも多く育てたいと考えております。

もとより浅学菲才ではございますが、先生方のお役に立つことができますように、精進努力してまいります。今後とも、ご指導よろしくお願いします。

名誉教授のご紹介

消化器外科学分野― 竹山 廣光 教授

竹山 廣光 教授

竹山廣光先生は、昭和52年に名古屋市立大学医学部をご卒業され、昭和54年より旧第一外科学研究員となられました。平成2年から2年間UCLAに留学され、外科栄養代謝分野においての基礎研究を行う傍ら、keyhole吻合法などのアイデアに富んだ手術法を考案され、基礎臨床ともに多くの研鑽を積まれました。また常に患者の側に立った医療を実践され数多くの外科医の臨床教育に影響を与えました。

平成21年1月名古屋市立大学大学院医学研究科消化器外科学教授に就任され旧第一外科、旧第二外科の消化器外科を統合し外科大講座を実現するという大変難しい問題に直面されましたが、竹山先生の寛仁大度かつ愛されるお人柄により、多くの人々の理解と協力を得て消化器外科を確固たるものとしました。

教授就任後は自らも内視鏡外科技術認定医、肝胆膵高度技能指導医などの数々の資格を取得され、臨床・研究・教育の陣頭指揮を取り多くの学位取得者を輩出されました。

教授退任後は三重北医療センター長として三重北勢地域の地域医療の統合・改変という新たな挑戦に取り組んでおられます。今後もますますのご活躍とご健康を祈念いたします。

文責 消化器外科学 坂本 宣弘

03 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

抗体療法の開発:造血器腫瘍から固形がんへの展開

＜はじめに＞

がんの抗体療法ときいて、皆さんはどのような印象をお持ちでしょうか?　分子標的薬、副作用が少ない、高額な薬などでしょうか。実際には、抗体薬は既にがん治療に欠かせない存在となっています。血液・腫瘍内科で扱う血液悪性腫瘍においては、2001年にリツキシマブが臨床導入されたのを皮切りに、次々と新たな抗体薬が開発され臨床応用されています。その一端と新たな取り組みをご紹介します。

＜リツキシマブ＞

リツキシマブはBリンパ球表面に発現するCD20に対するモノクローナル抗体です。抗体としての直接作用のほか、抗体依存性細胞傷害(ADCC)、補体依存性細胞傷害(CDC)といった宿主のNK細胞や補体を活性化することにより抗腫瘍効果を示すという、今日の免疫療法の先駆けとなった薬剤です。2001年にCD20陽性の低悪性度B細胞リンパ腫、2003年にはびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する適応を取得し、長らく標準治療としての地位に君臨していたCHOP療法(シクロホスファミド、ドキソルビシン、ビンクリスチン、プレドニゾロン)に対し、リツキシマブ(R)を上乗せしたR-CHOP療法の治療効果が有意に優れていることが明らかとなりました。主な副作用として、インフュージョンリアクションや腫瘍崩壊症候群などが挙げられますが、予防やマネージメントが可能となっています。

＜モガムリズマブ＞

リツキシマブの登場により治療効果が著しく向上したB細胞リンパ腫に対して、T細胞リンパ腫には有効な分子標的療法が存在しませんでした。そのような中、本学の旧腫瘍・免疫内科学の上田龍三教授のグループが産学共同で開発した抗CCR4モノクローナル抗体モガムリズマブが2013年に登場しました。我が国で開発された、最初のがん治療抗体薬です。CCR4は、90%以上の成人T細胞白血病/リンパ腫(ATLL)や一部の末梢性T細胞リンパ腫、皮膚T細胞リンパ腫細胞表面に発現しており、本薬剤はこれらの疾患に保険承認されています。稀ながら重篤な副作用に皮膚障害があります。我々は薬学部と共同で分子標的薬による重篤な副作用を予測するゲノムバイオマーカーの探索研究を行っており、この皮膚障害についても研究を進めています。また、CCR4はがん細胞に対する宿主の免疫反応を抑制する活性化制御性T細胞(Treg)に強発現しているため、理論的には固形がん患者さんにも効果を発揮する可能性があります。多施設共同医師主導治験として固形がんに対するモガムリズマブ単剤投与の第I相試験に参加し、当院でも呼吸器内科、消化器内科、皮膚科、婦人科の先生方と連携して治験を完遂することが出来ました。臨床効果は限定的でしたが、活性化Tregの抑制効果が証明されました。第二段階として、免疫チェックポイント阻害薬として広く使用され始めている抗PD-1抗体ニボルマブとモガムリズマブを併用した術前複合免疫療法の第I相医師主導治験へと進めています。当院では肺がん、食道がん、腎がん患者さんを対象に、呼吸器内科・外科、消化器内科・外科、泌尿器科の先生方と臨床試験開発支援センターの皆様の絶大なご協力をいただきながら治験を実施しています。本臨床試験の結果次第で、いずれ固形がん患者さんのお役に立てる薬剤として育っていく可能性もあります。そんな日を夢見て、日々臨床・研究に取り組んでいます。

将来を担う血液・腫瘍内科学若手医師と共に

文責　伊藤旭、飯田真介(血液・腫瘍内科学分野)

●姪がカヌーの大会に出場するので応援のため岡山県に行ってきます。日焼け対策しないと…(事務職員　女性)

04 お知らせ Information

学生生活

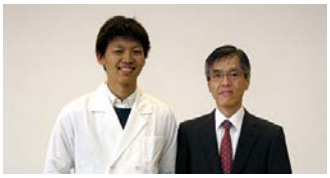
スチューデントドクター認定証を授与されました

平成29年3月29日、新しい学年への進級とともに先生方よりスチューデントドクター認定証と白衣を授与していただきました。山本同窓会長にいただいた白衣に袖を通した際には、これから始まる病院実習への期待とともに、一層身が引き締まる思いとなりました。まだ実習が始まって間もないですが、実際に病院で患者さんの表情や経過を見ていると自らが医師としてどのような道を歩んでいくか真剣に考えさせられます。スチューデントドクターの認定証に恥じぬよう、今後とも勉学に精進させていただきます。　医学部5年　井上風吹

※スチューデントドクターとは共用試験（CBT、OSCE）に合格し、参加型臨床実習を行うに足る十分な知識、技術、態度を身につけていると認定された学生に対して付与する資格のことです。（全国医学部長病院長会議）

授与後の集合写真

スチューデントドクター認定証と白衣を授与されました


山本同窓会長と一緒に

マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2017に名市大医学生ボランティアが参加しました

今年もマラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2017が3月12日（日）に開催されました。

マラソンフェスティバルナゴヤは女子マラソン、シティマラソン、車いすマラソンが一同に開催される大会で、特に女子マラソンは世界のトップ選手が出場する大会として有名です。約2万人が参加する女子マラソンは「世界最大の女子マラソン」として今年もギネスの世界記録を更新したそうです。

このマラソンフェスティバルには毎年、救命救急センターから医師・看護師が医療ボランティアとして参加しています。今年は、それに加え「医学生ボランティア」の募集も始まり、名市大のMeLSCサークル、蝶ヶ岳部、ドクターエイドから合計10名の医学生が参加しました。ゴール地点のナゴヤドームにおいて傷病者の誘導や応急処置、見回りなどを行い、医師・看護師のアシスタントとしても大いに活躍して参りました。

大会の後、大会実行委員会より、今回の医学生ボランティアの参加について名市大へ感謝状が届きました。皆様にお知らせ致しますとともに、今後とも名市大の未来を支える学生の教育・支援をよろしくお願い申し上げます。

感謝状

公立大学法人名古屋市立大学 殿

貴校は「マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2017」への深いご理解を示されるとともに、医療・救護活動を通して、本大会の開催に多大な貢献をされました

よってそのご厚意に対して心より感謝の意を表します

平成29年3月12日

名古屋市立大学病院救急科　教授　松嶋 麻子

卒業式&入学式が行われました

平成29年3月24日、卒業式・学位授与式が行われ110名の卒業生が医師としての第一歩を踏み出しました。

そして4月には97名の新入生を迎えました。医学部の新入生歓迎会も行われ、教職員・先輩学生が集まり交流を深めました。

学位授与式にて

新入生歓迎会の様子

サントトーマス大学より称号を付与されました。

平成29年2月末、国際交流協定校のマニラにあるサントトーマス大学（UST）にて名誉教授の称号を授与されました。これは理学部長のRamos教授のご推薦によるもので、Dagohoy学長より金色に輝く大きなメダルをかけていただきました。名誉教授による特別講演会では"HIV and HTLV are just the beginning of human retroviral infection"と題し、90分の講演を行いましたが、フィリピンではHIV感染者数が近年著しく増加していたので時宜を得た内容となりました。

また、USTのRamos教授やフィリピン大学のBarzaga教授らと、この国におけるAIDS/HIV対策や組織作りについて具体的に協議することができ、短い滞在期間ではありましたが大変有意義な時間となりました。

細胞分子生物学分野　教授　岡本 尚

平成29年度最新医学講座 オープンカレッジ　第2期『生活習慣病　up to date　「健康に長く生きるためのヒント」』

本講座では、主に医学について、本学の各専門分野が蓄積している最新の重要な教育研究情報を、わかりやすく解説します。

開催日時　平成29年9月1日～平成29年10月20日
各金曜日　午後6時30分～8時　全8回

開催場所　桜山キャンパス
医学研究科・医学研究棟11階　講義室A

募集対象　一般

受講料　8,000円

定員　80名

応募方法	往復はがきまたはeメール 平成29年7月24日(月)～平成29年8月11日（金）（締切予定） 詳細は7月下旬頃ホームページに掲載予定　URL:http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/

問い合わせ先　名古屋市立大学教育研究課　オープンカレッジ担当
〒467-8601　名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1　TEL:052-853-8077　eメール:igakubuoc@sec.nagoya-cu.ac.jp

【医学振興】寄附金ご協力のお願い

本学では、優れた教育・研究・診療環境の整備・充実のため「名古屋市立大学振興基金」を設立し、広く皆様からの財政的ご支援をお願いしてまいりました。

今年度は、医学部2、3年生が授業、実習で使用するなど使用頻度も高い基礎教育棟4階～6階のトイレ改修を実施したいと考えております。

皆様にはおかれましては、この基金の趣旨をご理解いただき、「名古屋市立大学振興基金（医学振興）」に、ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

改修前

改修後:イメージ図

基礎教育棟トイレ

ひとこと☆メッセージ 募集！

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!ご無沙汰している同級生に、恩師に‥ワイワイ楽しいお便りお待ちしています。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。（注:次回掲載は9月号です）

1.一言メッセージ（30字以内）2.卒業年度 3.お名前（ふりがな）＊匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。＊4.住所　5.電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1　E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
名古屋市立大学医学部広報誌『一言メッセージ』係宛

＊お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません＊

広報誌：瑞 医（ずいい）
発　行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL（052）853-8077 FAX（052）842-0863

URL http://www.nagoya-cu.ac.jp/

※次号の発行は平成29年9月下旬発行予定です。［年3回　1月・5月・9月］

我こそは通信員!

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けしてくださるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
または医学部事務室　広報担当まで

このリーフレットは再生紙（古紙100%）を使用しています。